

ふしみサラダボール子育て情報

「理解への道」

令和4年9月21日号

板橋富士見幼稚園



幼児期は「知っている」から始まる

幼児期の発達には、物事を「知る」という認知的側面、つまり五感で感じる感覚があります。この五感から学び取る感覚が積み上がると「わたし、知っている」になります。

3歳からの教育は、この「知ること」と「知っている」ことが出発点です。

実は、「知っている」と「理解している」ことは、知的能力では大きく意味が異なります。「知っている」にたどり着く入り口には、幼児期に育てておきたい好奇心・探究心などの心の揺らぎがあるのです。この好奇心や探求心は、やがて興味関心となり、さらに「理解する」という道にいざなわれていきます。そして、考えたり工夫したりと試行錯誤しながら、「理解する」ことにたどりつきます。

つまり、「知る」「知っている」「わかる」「理解する」という過程を、成長と共に体験していくのです。この段階の中で、探求力という強い力が生まれ、試しながらやり遂げたい(理解したい)という衝動に揺さぶられ、「理解している」にたどりつくのです。この一連のプロセスを、子どもは無意識ながら遊びや生活を通して学び続けていくのです。

では、幼稚園はどこまでを教育として行うのでしょうか。

文部科学省の新しい指針では、幼稚園教育は卒園までに、遊びを通して探求力へつながる意欲的な感覚をもつところまでが課題とされています。

つまり、3歳から心情豊かな体験を通して、自発主体的な行動力によって遊びにチャレンジする中で「意欲」が心情として育ち、探求力を携えて自信を培うこととなります。

例えば、雨上がりの帰り道、地面に水たまりを見つけると、不思議とどの子どもの中を通ります。そっと、時にはバシャバシャと跳ね返る水の面白さに誘われて思いっきり踏みつけ、水の飛び散る光景を楽しみます。



些細な出来事ですが、好奇心が水たまりを発見させ、次に水面に靴を入れてみて、浅さや水の動きを感じ取り、足で跳ね返す主体的探求心が培われます。何度も繰り返すことで性質や仕組みに気づき、関わる意欲が行動に強く現われ、探求力が生まれていきます。この〔探求力〕を育てていくことが幼児教育の最も大切な課題です。同じことを何度も繰り返しながら、思考錯誤したり、工夫したり、やり遂げた時の達成感を味わうことで、強い自信に繋がっていきます。次回は第2弾として、この先の育ちにつ

【写真：園庭のブドウをみんなで味わいます】 いてお話ししたいと思います。

